



もっと生駒が好きになる!

～生駒市まちづくりガイドブック～



生駒市都市計画課
平成 25 年



生駒市マスコットキャラクター
たけまるくん

あなたは生駒が好きですか？

今、あなたは“好きな人”がいますか？もしくは“好きなモノ”がありますか？

好きな人がいたり、好きなモノがあったりすると、「そのために一生懸命頑張れる！」という思い出がありませんか。「好き」という気持ちは、「～のために」という思いや「頑張る」という思いの『源』になるものかもしれません。

さて、ここでひとつ質問です。『あなたは生駒が好きですか？』

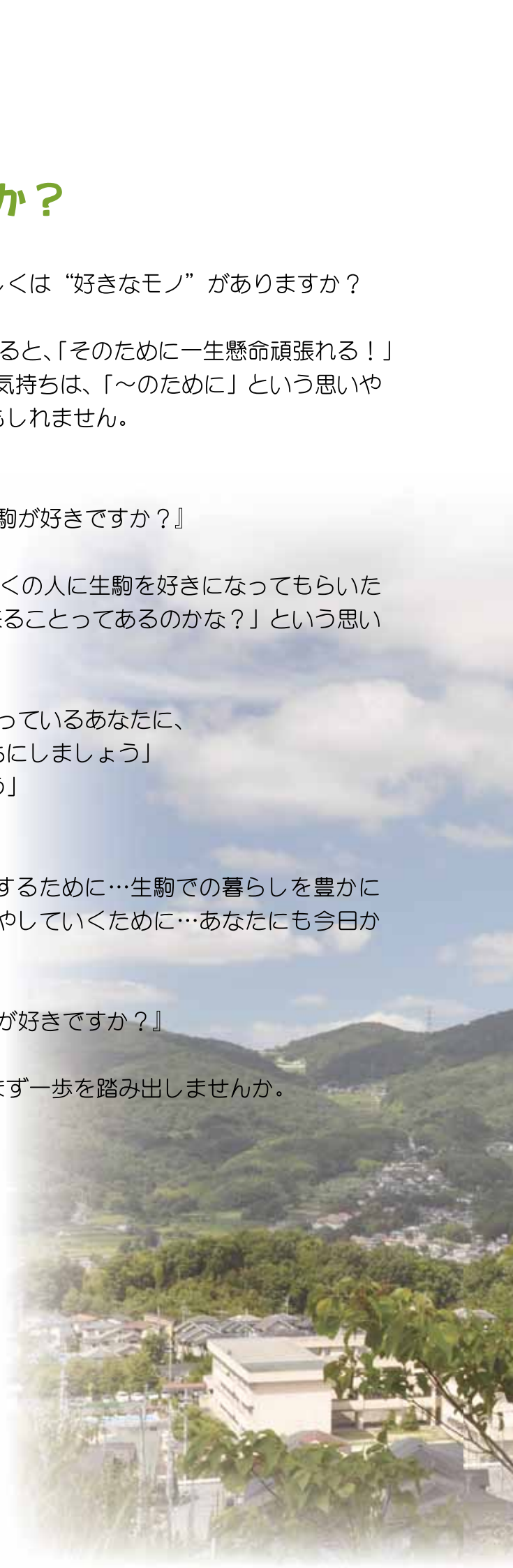
もし、生駒が好きな人であれば、「もっと多くの人に生駒を好きになってもらいたい」、「大好きな生駒のために私（私達）が出来ることってあるのかな？」という思いを少なからずお持ちではないでしょうか。

この本では、「生駒が好き」という思いを持っているあなたに、
「あなたが好きな生駒をもっと素敵なまちにしましょう」
「もっと生駒が好きな人を増やしましょう」
ということを呼びかけるものです。

大好きな生駒のまちをもっと素敵なまちにするために…生駒での暮らしを豊かにしていくために…生駒を好きな人をもっと増やしていくために…あなたにも今日からできることがあります。

さて、もう一度お聞きます。『あなたは生駒が好きですか？』

胸をはって『はい！！』と言えるあなた。まず一步を踏み出しませんか。





《目 次》

I. 「まちづくりってなに？」編

I-1	まちづくりとは.....	1
I-2	あなたに向いてるまちづくりのはじめ方.....	3
	私のまちづくり1 “地域を良くする”という思いを持って.....	5
	私のまちづくり2 生駒市を子育てしやすいまちに！.....	7
	私のまちづくり3 陶器リサイクルからはじまった地域貢献.....	9
	私のまちづくり4 建築士という職業を活かして.....	11
	私のまちづくり5 「食」を通したまちづくり.....	13
	私のまちづくり6 自分の住まいは自分で守る.....	15
	取り組み事例 ～ こんなことから始めてみませんか？.....	17
コラム1	今ある地域活動団体の思いから気づき、学ぶ1.....	18

II. 「まちづくりをはじめよう！」編

II-1	活動のはじめ方・取り組み方のステップ.....	20
	ステップ1 暮らしをみつめなおす.....	20
	ステップ2 一步を踏み出す.....	22
	ステップ3 仲間と活動を広げる.....	23
	ステップ4 一人ひとりの思いを地域の思いとして共有する.....	24
II-2	まちづくりの5つの心得.....	25
	心得1 お互いさまの気持ちを大切にしよう.....	25
	心得2 相手の立場を考えよう.....	26
	心得3 何ごとにも好奇心を持とう.....	26

心得 4 「出来ないこと」より「出来ること」を探そう.....	27
心得 5 未来を夢みて一歩ずつ前に進もう.....	27
コラム 2 今ある地域活動団体の思いから気づき、学ぶ 2	31

Ⅲ. 「まちづくりを育てよう！」編

Ⅲ-1 交流の場をつくる.....	32
Ⅲ-2 仲間を増やす.....	34
Ⅲ-3 活動の資金を確保する.....	35
Ⅲ-4 行政と連携する.....	36
(資料)	
応援メッセージ・一言コメント	38
まちづくりに関する支援メニュー	41
まちづくりガイドブックと都市計画マスタープラン	42

1. 「まちづくりってなに？」編

1-1 まちづくりとは

● 「こんなものが欲しい」ではなく「こんな暮らしがしたい」から

あなたは普段の暮らしのなかで、まちに対してふとした思いを抱くことはありませんか。

「近所の公園にもっと花や緑がたくさんあったらいいのになぁ…」

「身近なところに近所の人が集まれる集会所があったらいいのになぁ…」

「近所に大きな図書館があったらいいのになぁ…」

欲しいものはいっぱいありますね。これがあれば…あれもあれば…。あそこの地域はあんなものがあっていいなぁと思うこともあるかもしれません。

でも考えてみれば「こんなものが欲しい」の背景には「こんなことをしたい」「こんな風に暮らしていきたい」という思いがあるのではないのでしょうか。その思いを実現するために「こんなものがほしい」と思うのですね。

公園に花や緑がたくさんほしいと考えた背景にあるのは、「安らいだ気持ちで暮らしたい」とか「まちを華やかにしたい」という思いかもしれません。

近所の人が集まれる集会所がほしいと考えた背景にあるのは、「井戸端会議をしたい」とか「自治会の相談をしたい」という思いかもしれません。

大きな図書館がほしいと考えた背景にあるのは、「身近に本に触れる暮らしがしたい」とか「放課後に自習したい」という思いかもしれません。

あなたが本当に望んでいるのは、はじめに考えた「こんなものがほしい」ではなく、背景にある「思い」なのではないのでしょうか？

「こんなものが欲しい」からではなく「こんな暮らしがしたい」から考えてみませんか。

その「思い」を実現するための方法は、あなたがはじめに考えた方法だけではないかもしれません。

●一人ひとりの小さな行いが暮らしを豊かに

例えば、みんなが玄関前に花や緑を飾れば心が安らぐでしょうし、まちを華やかにすることもできます。

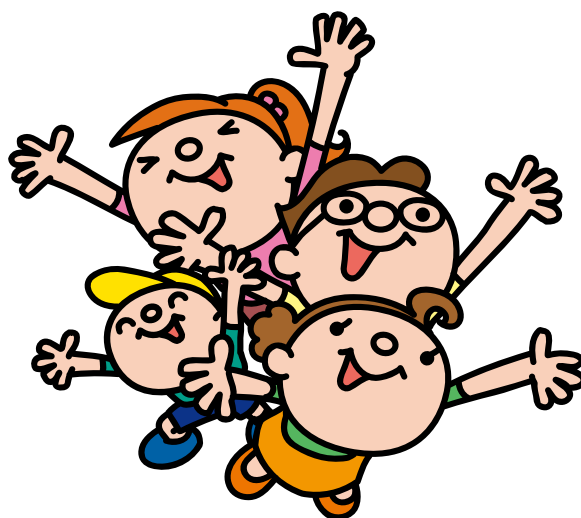
井戸端会議のためには持ち回りで小さな「自宅パーティ」をすることもできますし、近所の空き家を集会所として使わせてもらうことができるかもしれません。

図書館がなくても近所の人たちが読み終えた本を持ちよって「地域の図書室」をつくっている例もありますし、集会所を子どもたちの自習のために開放することも考えられます。

一人ひとりができることを考えて取り組むことで、意外とあなたの思いが実現されたりするものです。そして、そんな小さな積み重ねがあなたの暮らしを豊かなものにしてくれるのです。私達は、このような動きのひろがり「まちづくり」だと考えています。

まちづくりには一人ではじめられることもたくさんありますし、なかまと一緒にやればアイデアも広がり、また楽しく取り組むこともできます。さらに地域全体で取り組めば、できることの可能性も一気に広がります。地域に住んでいる人だけでなく、地域の事業所で働いている人や通学してくる学生、企業などと一緒に取り組んでいくことも考えられます。いろんな人とつながればつながるほど、活動は充実したものになっていきます。

自分たちの住む地域をよくしていくため、いろんな人と一緒に、楽しみながら取り組んでいくのがまちづくりの醍醐味なのです。



●実際にまちづくりをしている人たちの話からヒントを得よう

さて、「まちづくり」のイメージを何となくつかんでもらえたでしょうか。

もう少し具体的にイメージしてもらうために、あなたの身近で行われているまちづくりをご紹介します。

ここでご紹介するのは、生駒で様々なまちづくりの活動に取り組んでいる方々にインタビューをした内容をとりまとめたものです。活動をはじめるきっかけとなったことや、活動を楽しく続けるコツや秘訣などについてお話をうかがっています。

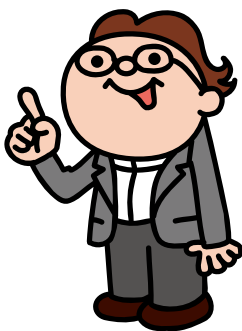
「まちづくりってこういうことなんだ」と感じてもらうのと同時に、活動をはじめるきっかけやヒントになればと思います。

まちづくりの取り組み方は人それぞれ、いろいろなやり方があります。自分の関心やライフスタイルに応じたやり方で取り組んでいくことが、まちづくりを楽しむコツです。

次頁の「まちづくりのはじめ方・診断チャート」は、あなたのキャラクターを診断し、どういったまちづくりのはじめ方（関わり方）が考えられるかを参考までに示したものです。

当然、はじめは、仲間とわいわいする活動から始めたが、結果として地域貢献の活動につながるという事もありえます。

それを踏まえて、インタビューの記事を読んでみてください。その結果、「こういうことをやってみたいな…」「こういう思いや意識は私にもあるな…」と言ったことを感じてもらえれば幸いです。



※次頁から紹介するインタビュー記事「私のまちづくり」は、本冊子を作成するにあたって協力頂いた大阪大学松村研究室の学生の皆さんが実施したヒアリングのうち、身近なところからはじめるまちづくりという視点のもと代表的なものを抜粋しました。

まちづくりのはじめ方・診断チャート

【スタート】

→ Yes

- - - - -> No

今までに
地域活動の
経験がある

会社で
培った
知識を活か
したい

物事は筋道
をたてて
考えたい

社会や政治
への関心が
強い方だ

今、地域に
対して思う
ことがある

熱中しやす
い・凝り性
だと思っ
た

明確な目標
があった方
がやる気
が出る

特技や趣味
を活かし
たい

とにかく何
でも楽し
くやりたい

とにかく
自分の地
域が大好き

〈目的達成タイプ〉
熱い思いを持ったあなたは、まずはその思いを形に出来ることから考えてみましょう

⇒私のまちづくり6へ

〈特技活用タイプ〉
豊かな知識やノウハウをお持ちのあなたはその特技を活かして出来ることから考えてみましょう

⇒私のまちづくり4、5へ

〈仲間とともに♪タイプ〉
楽しいことが大好きなあなたは気の合う仲間とともに出来ることから考えてみましょう

⇒私のまちづくり2、3へ

〈地域愛♥タイプ〉
地域愛に溢れるあなたは、まずは地域の人達と一緒に身近で出来ることから考えてみましょう

⇒私のまちづくり1へ

〈1人で気軽にタイプ〉
とにかく一歩を踏み出してみようと感じているあなたは1人で気軽に出来ることから考えてみましょう

⇒取り組み事例へ

何か活動をはじめようかな…と、少しでもお考えの皆さん、この診断チャートを使ってあなたに向いているまちづくりのはじめ方について考えてみましょう。

※あくまでひとつの参考としてお考えください。

私のまちづくり 1 “地域を良くする”という思いを持って

西菜畑町自治会長：城山英章さん

◆始まりは声をかけられてなんとなく…

若いころはサラリーマンをしていたが、その後、自営で造園業をはじめました。そこから地域との関わりが深まり、前会長等からの呼びかけもあり自治会活動に関わるようになりました。自治会長になってからはもう 20 年以上になります。

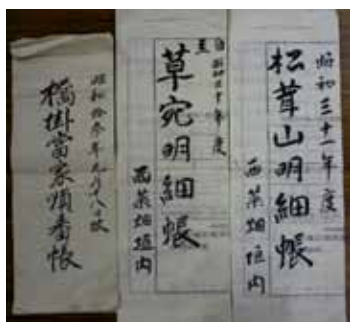


自治会長の仕事は、地域の人達のまとめ役。当然、賛同してくれる人も反対する人もいますが、少しでも互いに理解しあい、共同で頑張ろうと呼びかけるようにしているが、そこが一番難しいところでもあります。賛成の意見の人達を少しずつ味方につけ、そういう人達の協力を仰ぎながら、一歩ずつ前進するように意識しています。

◆かつては生活の一部であった地域活動

かつては生駒の山でも松茸が取れた。それは地域の人達が山とともに生活をし、きちんと管理をしてきたからです。しかし、家庭にガスが普及し、薪をとる必要がなくなりました。すると一気に山が荒れはじめたのです。今では自然環境を守るという目的のために山の管理をしないといけなくなりました。まさに、暮らし方が変われば環境が変わるといことです。

また、昭和 13 年頃の記録に「橋がけ帳」というのがありました。当時、大雨で橋が流されたりすると自分たちで作り直したのですが、その時のメンバーを記録した帳簿です。



橋がけ帳など

最近では、自治会の清掃をしようと声がけても、「税金を払っているのだから、市にやってもらったらよい」という人もいるのに、昔の人達はすごいと思いました。

経済発展とともに、個人の権利意識だけが強くなり、地域のことは地域でやろうといった意識がなくなって、結果、自治会組織の疲弊にもつながっているのは残念なことです。

◆今、自治会活動が担うこと

私自身、自治会は公共的な存在だと感じています。かつては、無意識のうちに暮らしの延長として取り組んできたことを、自治会という組織を通じて担うということなのです。

NPO 活動は一つの事に特化し、自分たちが掲げたテーマ以外は扱いにくい印象があります。仕方ありませんが、そういう点が自治会活動とは大きく異なり、連携が図りにくいところかと思っています。

また、ボランティア団体も多くあります。確かに有難いことですが、その力を上手くコーディネートする役割が必要ではないかと思っています。

自治会は担う領域が非常に広く、大変ではありますが、誰かがやらないといけないと思うのです。

◆地域力の向上をめざして

私の地域では顔つなぎを目的とした自治会祭りを企画しました。そこでは、様々な取り組みをあわせて実施しています。例えば、防災訓練だけで呼びかけても人は来ませんが、金魚すくいなど子どもが喜ぶようなイベントとあわせて行くと親



市内最大規模のどんど

もついて来ます。

自治会活動は扱う領域が多様であるため、多くの人に関わってもらいたいと思います。確かに現役で働き盛りの年齢層の人達にとっては参加しにくいかもしれません。それはわかるのですが、そういう人達にはいつも「定年したからといって地域には簡単に戻ってこられないんやから、今から準備しとかなアカンで」と言うようにしています。多くの人をつないで地域を良くしていきたいと思っています。

(2012. 6. 7のインタビューを基に構成)



(上・右) 地域みんなで大掃除



(上・右) 西菜畑町祭の様子



「定年したからといって地域には簡単に戻ってこられないんやから、今から準備しとかなアカンで」

私のまちづくり2 生駒市を子育てしやすいまちに！

いこま育児ネット：石川千明さん

◆乳幼児と参加できる育児サークルがあれば な・・・という思いから

現在、一児の母です。
元々、生駒市育ちでもなく、ずっと大阪で働いていたため、地域に友達がおらず、出産後に子育ても思うようにいかない日々が続いていました。



ママ友を求めて育児サークルにも参加しましたが、地域の育児サークルでは乳幼児を連れて行けるところがほとんどありませんでした。

そんな中、パパママ教室で出会った友達に声をかけ、まずは乳児でも参加できる育児サークルを立ち上げました。その次に私のような育児サークルを探している人がすぐにそのサークルに出会えるようにと育児情報発信を目的に立ち上げたのがいこま育児ネットです。

◆いこま育児ネットがめざすもの

育児ネットでは、育児サークルの支援や育児情報の発信などを目的として取り組んでいます。

特に、持続的な育児サークルの実現のため、「後継者・リーダー育成」には力を入れています。

得てして、育児サークルは「立ち上げた本人が幼稚園に子どもが入ったら育児サークルが消滅」というパターンが多いので、いかに次の世代にバトンを渡すかということが重要になります。

育児ネットでは、奇数月には「リーダー交流会」を開催し、育児サークルで行うこと（遊びなど）を学ぶ機会を提供し、偶数月にはサークル運営の相談やサポートを行っています。

育児ネットは活動支援や助言は行いますが、活動の方向について口は出さないようにしています。自分たちで考え、行動してもらおうスタンスを大切にしています。

◆つなげよう、子育ての輪

育児サークルに参加する人は、その瞬間にサポートを求めて参加しています。毎年、新しい命が生まれ、同じような思いを持った人たちが出てきます。行政の支援よりも身近な地域の育児の輪をつくるためにも、サークルの活動を途切れさせたくないし、途切れて欲しくないと考えています。

そういう意味で、それぞれのサークルの卒業生が、子育てがひと段落した頃に戻ってきて関わってくれるようになれば・・・という思いを持っています。



いこま育児ネットの活動の様子

◆活動を続けていくために

私が活動を続けている秘訣を問われたら、まずは「生駒市を子育てしやすいまちにしたい」という思いがあるからだと思います。おそらく、育児において私と同じような悩みを持った人はこれからたくさん出てくるでしょう。そういう人たちが子育てしやすいまちになれば・・・という気持ちが常にあります。それは既に私の使命感でもあり、ライフワークになっているのかもしれませんが。

もちろん、私達だけでここまで来たわけではありません。生駒市役所や「子どもサポートセンターゆう」の支援があった事に深く感謝しています。しかし、活動を続けていく上で重要なのは、私

達が運転手であり、行政は助手席に座ってもらうという感覚だと思っています。あくまで自分たちが主体となって、考え、行動するという事が何よりも重要だと思うのです。

(2012. 6. 27 のインタビューを基に構成)

「重要なのは、私達が運転手で、行政は助手席に座ってもらうという感覚だと思っています」



いこま育児ネットのホームページ

私のまちづくり3 陶器リサイクルからはじまった地域貢献

NPO 法人関西ワンディッシュエイド協会：樽井雅美さん

◆何とかしたいなあ…という思いから



元々、お菓子コーディネータの仕事をしていました。その時に、お菓子の入れ物の陶器のカップがゴミとして出すと再利用されていないことを知りました。そこで初めて「何とかしたいなあ」という思いを持ったのですが、その時はそんなに大げさに何かをしようと思ったわけではありません。

少し調べてみると、岐阜の方で陶器をリサイクルしていると分かったので、「自分の分くらいは宅急便で送ろう！」と始めました。そのうち、ご近所さんの分も送ってみようかなと思いはじめ、家の前に回収ボックスを置いたら、すごくたくさん集まりました。

ビックリする反面、「私と同じような思いを持つ人がこんなにいるんだ」と嬉しくなりました。それが活動のきっかけです。その後、共感してくれたご近所さん5人で活動を始めました。

2006年からなのでもうすぐ丸6年になります。今はNPOにもなり、色々な支部も出来て、会員数も70名程になりました。

◆楽しみながら広がった活動とつながり

最初は、岐阜までの輸送料は自腹でしたが、ある人が「カンパで集めたら？」と言うので試みに募ったら1万円が集まりました。その後、コープの環境助成金を使わせてもらったりもしました。輸送料もばかにならないので欲しい人には持って返って貰おうとストリート市を始めると思いのほか人が集まりました。

そうこうしていると、コープさんが「家の前でやるならコープの店頭でやった方が人も集まるのでは？」と言ってくれました。

そのお言葉に甘えてコープ前で、毎月10日を陶器の日と銘打ってはじめるとビックリするくらい陶器も人も集まりました。

陶器は市民の皆さんが持ってきてくれ、コープや市も協力をしてくれるようになりました。色々な方々が、自分たちのできる範囲のことで協力してくれていると実感しています。

今のスタッフの大半も元々はストリート市の常連さん達です。「もったいない」「陶器が大好き」という思いがきっかけで、楽しみながら活動をして結果的にゴミ減量ということにつながっています。

これがはじめから「環境問題の解決に向けて」という看板を掲げていると敷居が高くて、こういった活動にはなっていなかったと思います。

◆きっかけを生む何かがあれば・・・

人は誰しも「地域の役に立ちたい」という思いを持っていると思います。それを、動かす「きっかけ」がないだけです。

私達の活動のはじまりはすごく敷居が低かったのが、結果的には良かったのかな。だって、要らない陶器を持ってきてもらう事がボランティアですから。

そして、ご近所の人をはじめ地域の人達に恵まれた点、企業や市の協力を得られた点も大きかったと思います。そういった色々な要素が上手くかみあったのが、ここまで活動が広がった要因かなと感じています。



◆私達が意識していること

個人ではじめた活動がすごく大きなものになっています。コープのつながりで広がり、市の事業にもなりました。

私はいつも、「1人の100より、100人の1」と言っています。1人が頑張りすぎるのではなく、1しかできない人も100人集めたら大きな力になりますよという意味です。そして、1の力を少しずつ10、20と増やしていければ良いのです。浅く広くからはじめるということも大切なのです。

それから、長く活動をしていると、各人の知識が身につく、みんなプロっぽくなってきます。しかし、「いかに素人であり続けるか」という点がすごく大切だと思っています。プロになってしまい、本当に必要なこと、元々、感じていた普通の感覚が損なわれ、見えていたものが見えなくなるよう意識しています。

◆地域のことは地域で

私達は団体を大きくしたいのではありません。これまで培った私達のノウハウを必要としてくれる地域に「種」として埋め込み、そこに住んでいる人達が自分達で何かをはじめられるようサポートしたいと思っています。

「地域のことは地域で」

結果的に、それが一番、地域にとっても良いことなんです。

(2012. 6. 10 のインタビューを基に構成)

「活動を続けているとプロっぽくなってしまう。いかに素人であり続けるかが大切だと思っています」



もったいない食器市

私のまちづくり 4 建築士という職業を活かして

(社) 奈良県建築士会生駒支部：伏見康司さん

◆専門学校での先生との出会いがきっかけに

建築士の資格を取るために通っていた学校の講師の人との出会いがきっかけです。その講師の方が教え子を集めて建築塾のようなものを開催したり、建築士会でイベント等を行っていたので参加していました。



建築士会には、一級建築士の資格を取得した際に入会し、結果、今に至っています。

◆建築士会での活動

現在、生駒支部で100名程の会員がおり、個別に委員会等を組織して様々な活動をしています。

法律の専門家なら弁護士、医療の専門家なら医者といった具合に、建物の専門家が建築士。しかし、弁護士や医者に比べて存在がイマイチPRできていません。そういう意味で様々な活動を通じて、建築士の存在のアピールに取り組んでいます。

まちづくり活動にも積極的に関わっています。例えば、有名な建築家を招いて、建築士と一般市民の両者が一緒に話を聞いてまちづくりを考えたり、吉野の照明デザイナーの方を招いて、一般市民と一緒に照明をつくるワークショップを開催したりしています。



あかりセミナー

他にも生駒市内ではないが、伝統的建造物群保存地区の指定を目指した保存活動の手伝い等もしています。

建築士はものづくり、まちづくり、暮らしづくりに直接関わる仕事です。そのため、建築を通してまちづくりに関わり、社会貢献することは建築士の責務だと思っています。

現在は震災の事もあり、防災に力を入れたいと考えています。



生駒神社での自主研修



家づくりセミナー（国土交通省補助事業）

◆まちづくりは絆づくり

様々な市民活動をはじめ、まちおこしのような活動がまちづくりと呼ばれ、それはその通りだと思うのですが、例えば、古くから伝わることを子ども達にきちんと継承する、隣近所の顔が見える安全・安心な暮らしづくりを行う、といったことがまちづくりというイメージがあります。

誰もが気軽に参加でき、お互いの顔を見ながら話をして解決する…そういったことがまちづくりだと思っています。

そのようなまちづくりの活動が、やがて絆みたいなものにつながっていくのではないのでしょうか。

生駒市は大阪のベッドタウンでニュータウンが増えたため、そういった地域の関係性が非常に希薄です。まずは、そういった関係性をつくらうとすることが、結果的に地域の問題や課題の解決につながるのだと思います。

◆まちづくりは誰でもできる

こういう活動は一度はじめると色々な話が舞い込んできてつながっていくのです。あまり一生懸命やりすぎるとやめられないというジレンマもありますが（笑）、活動は継続していくことが大事だと思うので上手く次にバトンタッチしていきたいと考えています。

私自身、「生駒市をこうしたい」という具体的な思いがあったわけではありません。やれることをやってただけです。そういう意味では、まちづくりは誰でもできるんじゃないかと思っています。

(2012. 8. 3 のインタビューを基に構成)



「奈良をつなぐ活動」の仲間とともに

「誰もが気軽に参加でき、お互いの顔を見ながら話を
して解決する…そういったことがまちづくり
だと思えます」

私のまちづくり5 「食」を通したまちづくり

生駒市健康づくり推進員連絡協議会：藤尾庸子さん

◆始まりはまほろば未来塾への参加から



20年程前に、「何かをしようと思っている人を育てる」プログラムとしてまほろば未来塾が奈良県で開催されました。そこに参加し、地域活動の考え方やまちづくりとは何かといったことを学んだのがすべての発端です。

◆「食」を通したまちづくり

今、私は食育に取り組んでいます。私が会長になってから、少し会議の時間を早めに切り上げて、お茶を飲んだりしながら、食材についての意見交換やお互いの地元の食材自慢などをざっくばらんに話し合うようにしました。そういう活動を通して、食育に関心を持ってもらえるようにしたんです。食べてみる、作ってみることから広がっていくのが本当の食育であると思います。自分達が楽しくないと伝わりません。

13年前には「男の料理教室」をはじめました。最近でこそ男性も料理に関心をもつようになり、そういう動きもありますが、当時はまだ先駆けだったと思います。

この料理教室に参加する男性の力を活用して、食育を広めていこうと考えたのです。料理づくりを通して、自分の健康のことを考えてもらう。その結果、食育にも関心をもってもらい、男女が力を合わせて行動を起こすことがまちづくりにも波及する。まさに、食を通じたまちづくりに広がればうれしいと考えました。

◆大事だと思うことは行動しないと！

また、我が家の田んぼに子ども会の子ども達を呼んで田植えもしています。その際に、茶がゆを食べてもらって伝統食を体験してもらっています。

す。また、魚のさばき方等も教えます。こういう体験を今の子ども達はなかなかする機会がありません。こういう活動の大切さはみんながなんとなく分かっています。でも行動にはなかなかうつせないのです。だから、私が行動するのです。こういう体験を小さい時にしておくことが大事だと思うから、命の大切さも含めて体験することでわかることがいっぱいです。

◆自分の役割を果たすことの大切さ

県の未来塾の目的は、「まちづくりのリーダー育成」でした。その講座を受けた人達が、地域に戻ってそれぞれの地域でまちづくりの旗振り役となることを期待していました。

だから、私は生駒でこういった活動に取り組みました。せっかく講座を開講しても、その意図を受けて、地域に還元するという意識が薄ければ講座を受けた目的が達成されないと思います。

自分で出来ることで良いから、折角、身につけた知識やノウハウを地域のまちづくりに還元してもらいたいと思います。

私は、総合計画の策定にも委員の一人として参加しました。そこで必要だと思ったことはどんどん発言しました。その結果、計画に反映されたこともいくつかあります。私みたいなおばさんでもその役目をきちんと果たせば、変えられることが少なからずあるのです。そういう意味でも、自らに



男の料理教室の様子

課せられた役目をきちんと果たすために努力するということがとても大切だと思います。

◆担い手づくりのフォローが大事

生駒市でもボランティア養成講座等を開いています。しかし、講座が終わると「では、明日から出来ることから始めましょう」といって放り出されるような印象があり、何から始めたら良いかわかりません。

確かに、そういうやり方もあるのですが、最近の人達はもう少し手厚くフォローしないと動かないのかな…と思います。折角、講座を実施したのですから、その人達を上手くやる気にさせ、活用するといったところまで視野に入れて、事業を行わないとなかなか担い手は育たないかもしれません。そういう意味でも、元気で声の大きい「おっちゃん、おばちゃん」を巻き込む工夫が必要で、やる気にさせる方策が必要であると思います。

◆責任あるまちづくり活動の担い手づくり

行政も色々なことに取り組んでいます。でも、色々な制度や規制があるからできないこともたくさんあります。思っているけど行動にうつせないこともたくさんあるでしょう。それを私たちがどう支えるか、サポートするか、役割分担できるかを考えないといけないと思います。

ボランティアは「自分がしたいときにやる、楽しかったら良い」という側面があるが、まちづくりにおいては少し違うと思います。そこにはある程度の責任を担えるボランティアの育成が必要ではないでしょうか。そういうことも講座等できちんと教える、そういう人材育成の取り組みが大切だと思います。

最初は小さなことしかできなくても、そういう人達が少しずつ集まって、広がっていくと、大きな力になっていくと思います。それがみんなで作るあげる本当のまちづくりであると考えます。

(2012.7.12のインタビューを基に構成)

「思うだけじゃなく行動にうつさないといけません。だから私は行動するんです」

私のまちづくり6 自分の住まいは自分で守る

元鹿ノ台自治連合会会長：山田勲さん

◆私が住む鹿ノ台について

鹿ノ台は市北部に位置する住宅地で、約40年前に伊藤忠不動産(株)「現：伊藤忠商事(株)」により住宅地開発が行われました。近くには関西文化学術研究都市など公共公益施設が整い、自然環境に恵まれた閑静な住宅地として、現在、約8,000人弱の人々が暮らしています。開発総面積122haで計画人口1万人の整合性、統一性、秩序性のあるまちづくり活動を目指しています。



私はサラリーマンとして海外を含めあちこちを転々、住環境の重要性を体験してきました。

鹿ノ台の住宅地の開発コンセプトや周辺をとりまく環境など都市計画された開発地に共鳴し、利便性と快適性の調和のとれたこの地を終の棲家として選んだ次第です。

鹿ノ台は11の自治会と各自治会からなる200名以上の班長(≒評議員)さんがいます。自治連合会も各自治会も月1回の定例会の場を設け、地域のイベントや課題、文科系クラブ、体育系クラブ、防犯、防災、福祉など住民同士のコミュニケーションを大切にしています。

住環境との関係性の深い分野は、それぞれ専門の部会、団体を組織し継続的に活動しています。

自治会活動も比較的うまくいっていると感じています。



鹿ノ台地区

◆住宅や住環境を大切にしなければ

人間にとっては住宅や住環境は非常に大切だと思います。家を買うのは一生のうちにそう何度

もできることではないですから慎重に選ぶ必要があります。

また、住環境が良いところは人が集まりますよね。その一方、少しでも環境が悪くなるとそこからとめどなく悪化していく危険性もあります。そういう意味でもきちんと住環境を守っていくことが大切です。家を買うことは環境を買うに等しいと思っています。

確かに、都市計画法や建築基準法といった枠組みで守られている部分もありますが、やはり抜け道もたくさんあるのです。行政だけに頼るのではなく、そこに住まう住民が意識を持ってアクションを起こす必要があるのではないのでしょうか。

◆住民の思いをカタチに

鹿ノ台では、平成3年に住民発意による地区計画が施行されました。

住民の高いまちづくりへの意識が原動力となり、行政との協働により、豊かな自然に恵まれた良好な住環境の維持・保全を図るとともに、孫の世代にまでこの環境を引き継いでいこうという思いがカタチになったと言えます。

元々は、ある地区におけるマンション問題や敷地の細分化、建築用途の混在化がきっかけでした。

まちづくりについて賛成派、反対派がともに話し合いを経て、マンション建設白紙撤回となりました。この時に、今後、こういう事がないようにということで、地区計画制度の導入の動きが始まり、鹿ノ台を守るため「環境保全対策協議会」が立ち上がったのです。課題に真摯に取り組まないうちの原点を学びました。

鹿ノ台の住民の多くは、閑静で緑豊かな戸建の住宅地を終の棲家として、この地を選択してやってきたわけです。

また、近年、マンション問題として地域とのコ

コミュニケーション不足が話題になります。全ての人がそうとは言いませんが、やはり戸建住宅地にお住まいの方よりも、地域に対する意識（地域活動への参加や関心度合い）は薄いように思われます。（雑感）私も利便性からマンション暮らしを経験しましたが、まちづくりや地域社会までは関心が薄かったように回顧しています。

◆鹿ノ台のまちづくりから全国に発信する

街びらきから 37 年、おかげさまで鹿ノ台は住民主体のまちづくりが着実に進んでいます。

その成果として、「国交省 手づくり郷土賞（緑化事業）：平成 21 年度」「奈良県環境保全功労賞（緑化事業）：平成 22 年度」「国交省 都市緑化機構会長賞（緑の地域づくり部門）：平成 24 年度」など数々の賞を受賞させていただいております。

このような受賞は、まちづくりを支える一人ひとりの市民が自分たちのまちに誇りを持ち、今後の活動の更なる励みになると思っています。

地域のアイデンティティを理解した上で地域に磨きをかけ、地域資産を守り育てることでまちの価値を上げることができます。そこに住む人がどういう思いでそこを住まいとして選んだのか、そして地域によって求める利便性や快適性など考え方の違いを踏まえた上で、地域のまちづくりを考える必要があると思うのです。

生駒市は関西でも有数の住宅都市だと思います。私達は鹿ノ台のまちづくりから、そのことを全国的に発信していければと思っています。

（2012. 11. 28 のインタビューを基に構成）

「住環境が良ければ人が集まり、逆に少しでも悪くなればどんどん悪くなります。だから自分達の住環境は自分達で守っていくことが大切なんです」



地域住民が育てるバスロータリーの花壇



鹿ノ台周辺緑地の整備活動

取り組み事例 ～ こんなことからはじめてみませんか？

●会った人にはあいさつをする

あいさつは生活の基本です。した人もされた人も気持ち良く、そんなまちでは誰もが安心して暮らせるでしょう。



ちょっと勇気を出して、「おはよう」「こんにちは」のひと言を絞り出してみませんか。

●地元のお店で買い物をする

最近は車で郊外の大型店で買い物をする人が増えていますね。

例えば、1週間に1度は地元のお店で買い物をしてみませんか。

地域のお店も潤うし、車も使わずに買い物できればエコにもつながる。一石二鳥ですね。



●子どもの見守り

子どもは地域の宝です。

子育てに関わるのは何も自分の子どもに限ったことではありません。例えば、登下校時に家の前の掃除をしながら、「いってらっしゃい」「おかえり」と声をかけるのも、結果として子どもの見守りにつながるのです。



●花を育てる

玄関の前やベランダなど外から見える場所で花を育ててみるのはいかがでしょうか。

きれいな花や緑は人々の心を和やかにします。まちゆく人々へのちょっとしたプレゼントです。



コラム 1

今ある地域活動団体の思いから気づき、学ぶ 1

平成 24 年の 4 月に、生駒市内の主な地域活動団体に対して、活動内容や団体が抱える問題・課題などについてアンケートを実施しました。

そのなかからいくつか興味深い回答についてご紹介します。

●きっかけは団体設立者の思いがはじまり

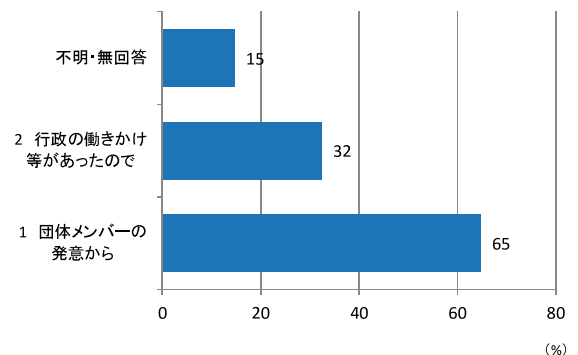
団体の設立のきっかけをみると、「メンバーの発意」、「行政からの働きかけ」という順番となっており、まずはメンバー個人の思いが最初にあるということがわかります。

また、誰もが最初から何かできると思っているわけではなく、「研修や講座」の受講などがそういった行動を後押ししてくれていることがわかりました。

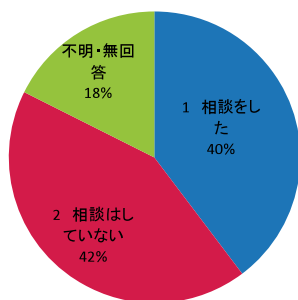
他にも、「1人で地域のそうじをしていたら共感する仲間がふえていった」「企業の地域貢献活動の一環として始めて、今も継続している」といった意見もありました。素敵なことですね。

「なんとなく何からはじめてよいかわからないなあ…」とと思っている人は、行政等が主催している自分の関心がある研修や講座を受けてみることはじめてみるのもよいかも说不定ですね。

活動のきっかけ



団体設立時の相談の有無



●市民活動推進センターららポートの役割

団体設立時に、4割の人が誰かに「相談をした」となっています。

その相談相手としては、市役所や市民活動推進センターららポート等が挙げられていました。

市民活動推進センターららポートは、様々な地域活動団体の活動に関する情報提供や相談、講座の開催等を通じて、市民主体のまちづくり活動の広がりを応援しています。

まさに、「困ったときのららポート」という存在なのです。興味のある方は一度のぞいてみてはいかがでしょうか。

II. 「まちづくりをはじめよう！」編

まちづくりは「こんなものがほしい」の背景にある、「こんなことをしたい」や「こんな風に暮らしていきたい」という思いを実現していくことでした。

「こんなまち」なら「こんな暮らし」が実現できるし、逆に「こんな暮らし」は「こんなまち」をつくっていくものです。具体的に説明しましょう。

かつて生駒には田園風景がどこにでもありましたが、今、中心部ではほとんど見かけなくなりました。中心部では、農業を営む人が減って、その代わりにどんどん開発が進んだからかもしれません。

最近では、郊外や幹線道路沿いにいろいろなお店が増えました。多くの人が車に乗って買い物に行くようになったからかもしれません。

また、「あいさつを続けていたら、気づくと地域の空き巣が減った」、「玄関先で花を育てていたら、いつもご苦労様とあいさつをしてくれた」といった具合に、暮らしの中に少しずつ変化も出てくるかもしれません。



このように、私たちの生活スタイルが変わるとまちの姿が変わっていく・・・すなわち、私たちの暮らしとまちには密接な関係があるということが分かります。

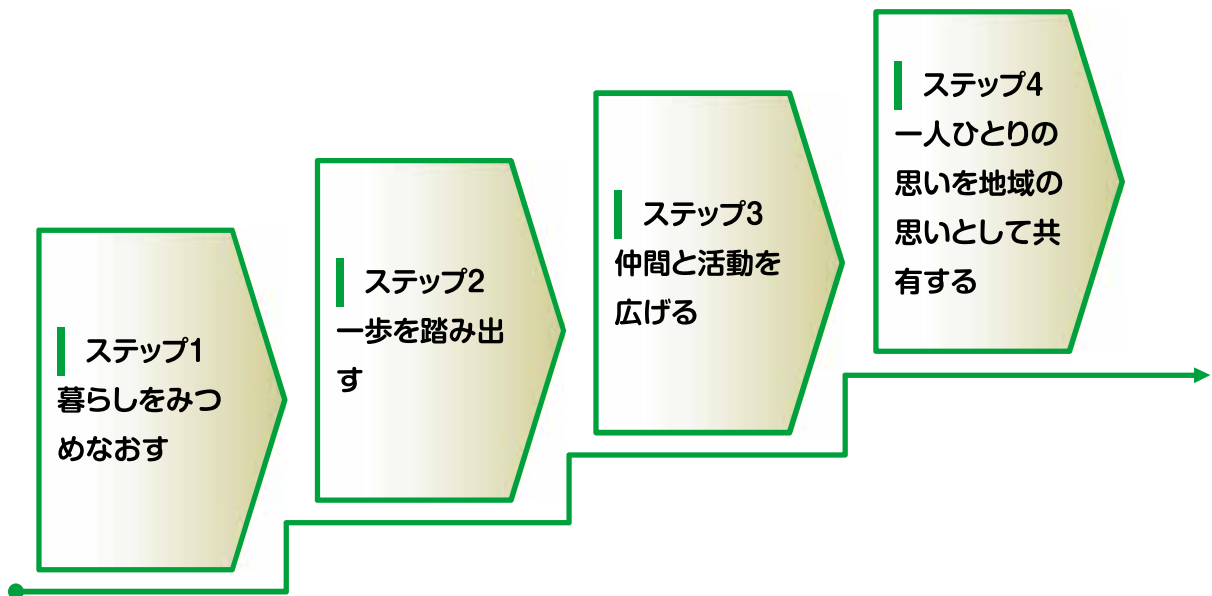
それは言い換えると、私たちの暮らし方ひとつでまちの姿を変えていくことができるということでもあります。

まちとの関わり方を変えることでまちを魅力的にすることができるのです。そんなことを意識しながら、まちづくりの活動をはじめてみましょう。

まちづくりの活動といっても、何からはじめればよいのだろう・・・多くの人が、最初に直面するハードルです。しかし難しく考える必要はありません。

ひとつずつできることから始めて、仲間を見つけ、活動を広げていく…これがすべての基本です。

ここでは、まちづくりの活動をはじめ、また取り組んでいくにあたってのステップについてご紹介します。



★自分の今いる“場所/立ち位置”をイメージして該当するステップから読んでみましょう。

ステップ1 暮らしをみつめなおす

先に述べたように、私たちの暮らしとまちは密接に関わっています。

すなわち、「まちづくりをはじめ」とは、まさに自分たちのまちの姿を形づくっていくことにほかなりません。

今、あなたはどんな暮らしをしていますか？

あなたの行いは、あなたが理想とするまちの姿につながっているのでしょうか？

まちづくり活動をはじめにあたり、まずは自分と地域や社会との関わりを見つめ直し、自分の暮らしを検証することから始めてみましょう。

その先に、あなたが求める暮らしやまちの姿への続く道（行うべきこと）が見えてくるかもしれません。

あなたの暮らしとまちの関わりを振り返りましょう

(該当する箇所に○)

	項目	チェック
【マナーやルール】	1. 近所の人には自分からあいさつをする	
	2. ゴミのポイ捨てはしない	
	3. 家の前くらいは積極的に掃除している	
	4. 犬の糞はきちんと持ち帰る ※飼っていない人は飼っていると想定して回答	
	5. ゴミ出しルールはきちんと守っている	
【社会貢献・社会参加】	6. 家で（玄関前や庭、テラスなど）花や緑を育てている	
	7. 節電や節水を心がけている	
	8. 出来るだけ自動車を使わないよう意識している	
	9. 出来るだけ地元のお店（商店街など）を利用するよう意識している	
	10. 月に1回は図書館を利用している	
	11. 月に1回は公民館を利用している	
	12. 1週間に1度は近くの公園を利用している	
	13. 出来るだけ地元の野菜を買うようにしている	
	14. 出来るだけ自治会活動（清掃など）には参加するよう意識している	
	15. 近所に複数の知り合い・仲間がいる	

結果はいかがでしたか？

「意外と○が多くてびっくり！私って結構、いろいろしてるんだ。」

「環境問題には関心があったつもりだけど、自身は節電とかの意識は薄かったな…」 etc

色々な感想があると思います。この結果を踏まえて、もう一度、この生駒でどんな暮らしがしたいか考えてみましょう。そして、そのために自分は何が出来るかを考えてみましょう。

ステップ2 一歩を踏み出す

“まちづくり活動をはじめよう！”

一言でいうのは簡単ですが、何からはじめればよいでしょう？

あまり難しく考えず、まずは、小さなことでもあなたが無理なく出来ることから始めてみませんか。

「私が」できることって何だろう…そこから考えると自然と答えが出てくるのではないのでしょうか。

〈具体的な取り組みの例〉

- 朝、会った人には必ずあいさつをする
- 庭先に通りから見えるように花を植えてみる
- 子ども達の下校時刻にあわせて犬の散歩をする
- 夜 12 時までは門灯や玄関灯をつける
- 自治会の行事に積極的に参加する
- 家の前の道路を掃除する
- 洗濯物や布団は通りから見えないように干す
- 近所（地元）のお店で買い物する
- 出来るだけバスを利用する
- 家の近所を散歩する



壱分小学校区のあいさつ通り
(まち全体であいさつから子育てをしていこうという活動です)

ステップ3 仲間と活動を広げる

一人ひとりの力は微力なものです。その取り組みや活動の効果もそれほど大きくはないかもしれませんが。

しかし、誰かと一緒に活動できれば、それはもっと大きな力となるはずです。仲間と一緒に取り組めば、一人の時よりも楽しさややりがいも大きくなるかもしれません。

無理に仲間をつくらうと思っても難しいと思われるかもしれません。しかし、一人ではじめた活動でも、周りの共感を得るような活動であれば自然と仲間は増えてくるものです。

「私のまちづくり」で紹介した活動でも、そのようにして少しずつ活動が広がり、充実していったものが少なくありません。

知り合いや仲間とともに協力しあうことで活動を広げていきましょう。

〈具体的な取り組みの例〉

- ご近所で相談して玄関先やお隣との間に花を飾る
- 自慢の庭を開放して自由に見てもらう（オープンガーデン）
- みんなでまちあるきをする
- お年寄りの通院や買い物の送迎をする
- 小さな子どものあずかり合いをする



里山保全の活動の様子
(いこま里山クラブ)



人が集うオープンガーデン

ステップ4 一人ひとりの思いを地域の思いとして共有する

あなたは今お住まいの地域でどんな風に暮らしていきたいですか？それぞれに思いがあることでしょう。

まちづくりの活動、特に地域全体で取り組んでいくときには、一人ひとりの思いを地域みんなの思いとして共有していくことが必要です。地域みんながどんな風に暮らしていきたいのか、そのためにはどんなまちであってほしいのか、それが地域で目指す将来像です。

将来像を共有することができれば、それぞれの立場で力を合わせて実現を目指していくこととなります。

〈具体的な取り組みの例〉

- 地域で盆踊り大会をする
- 自主防災組織を立ち上げる
- 子どもたちの見守りパトロールをする
- 地域のお年寄りのための給食サービスをする
- 道路の清掃などにみんなで取り組む（アドプトロード）
- 公園などの花壇にみんなで花を植える
- まちづくりのルールをつくる（地区計画、建築協定など）
- 地域の公園についてみんなで考える（コミュニティパーク事業）



ひかりが丘第一児童公園
コミュニティパーク事業



地域の防災訓練

生駒で様々なまちづくりの活動に取り組んでいる方々へのインタビューをする中で、活動を楽しく続けるためのコツや秘訣が浮かび上がってきました。

それらのうちで大切なことを「まちづくりの5つの心得」としてとりまとめました。この心得を意識しておけば、いろいろな人とつながりながらまちづくりの活動に取り組んでいく上できっと役に立つことでしょう。

心得1 お互いさまの気持ちを大切にしよう

私たちは社会、地域で誰とも関わることなく、一人で生きているわけではありません。知らず知らずのうちに誰かの手に支えられ、ある種の地域共同体という括りのなかで今の暮らしが存在していることに気づく必要があります。

それを強く感じさせられたのが、先般の東日本大震災だったかもしれません。

「自分さえ良ければ、他人はどうでもいいや」という思いがあると、まちづくりはうまくいかないのです。

地域に暮らす一人ひとりが、「あなたとともに私がいる」「私とともにあなたがいる」という相互扶助の関係、すなわち「お互いさま」の気持ちを持つことが何より大切であり、まちづくりには不可欠なものなのです。



生駒山麓公園の様子



バリアフリーに配慮して整備された公園

心得 2 相手の立場を考えよう

まちづくりには2つの「ソウゾウ力^{りょく}」が必要であると言われます。

1つめは、「創造力=クリエイティブ」です。こちらは、心得4で述べようと思います。

2つめは、「想像力=イマジネーション」です。

話し合いや会議の場で、「この人は何故、こういうことを考えるのだろうか」「この人は何故、そういう点に拘るのだろうか」と思った経験はありませんか。

こんな時には、思いやりの心で相手の気持ちを想像する努力をしてみましょう。その上で「私も同じように思っていました」「私はその考え方には異論があるなぁ」など、自分の考えや思いを丁寧に相手に伝えましょう。そうすることできっとお互いが理解し合えるはずです。

他人の考え方や価値観の違い（多様性）を認めて受け入れる（受容）…まずはそこからです。

心得 3 何ごとにも好奇心を持つ

まちづくりの活動は一人でできることもたくさんありますが、仲間や地域で取り組むことで可能性が大きく広がります。いろいろな立場の人と交流し、刺激を受け合ったり、つながり合うことがまちづくりの活動を充実したものにするために大切なことです。

そのためには、自分とは直接関係がないから、関心がないからと閉ざしてしまうのではなく、何ごとにも好奇心を持つことが大切です。いろいろなことに好奇心を持って、楽しみながら積極的に臨むことによって、改めて自分たちならではの考え方や得意なことを確認することもできます。また、このことは自らが社会の一員としての自覚を持ち、世の中をよくしていくために少しでも寄与していこうという主体的な意識にもつながるのです。



いこま塾 まちづくりワークショップの様子



心得 4 「出来ないこと」より「出来ること」を探そう

さて、ここで心得 2 で少し触れました「創造力=クリエイティブ」について説明します。

「創造」とは創る／造るということです。そういったところから派生して、「前向き」に考えましょうという意味で使っています。

例えば、「花や緑に囲まれた生活がしたいな…近所に大きな公園でも出来ないかな」と考える人がいたとします。もしかしたら、何十年か後に、緑あふれる大きな公園が出来るかもしれません。

しかし、そんな不確定なことを思っているより、例えば、自分のベランダや庭でまずは緑を育ててみてはいかがでしょうか。

また、地域で取り組んでいるアドプロードの活動に参加するというのも有り得ます。

このように、発想を少し変える…すなわち「出来ないこと」ではなく「出来ること」から考えることで、一步、自分が描く暮らしに近づくのです。

心得 5 未来を夢みて一步ずつ前に進もう

最後の心得は、「未来（夢）を想像しましょう」ということです。すなわち、私たちは「こんな暮らしがしたいから、こんなまちにしたいんだ」と考えることです。みんなが目指したい将来の姿を想像することは楽しいことです。

まちづくりをはじめると、きっとたくさんの障害が目前に現れるでしょう。しかし、そこに至る過程にもたくさんの出会いや発見など楽しく、心がわくわくする瞬間があるはずです。

「後ろ向きではなく前向き」に、楽しいことを想像しながら、無理なく一步ずつ前に進むことで、みなさんが目指す未来・夢の『創造』に取り組みましょう。



ママに負けるな！オヤジの会結成！（30代男性 生駒イチロウさんの場合）

設定

- ◇家族構成 私（会社員）、妻（専業主婦、30代）、子ども（小学4年生）
- ◇趣味・特技 スポーツ全般
- ◇毎日、大阪市内まで通勤。これまでの子どもの学校の事などは妻に任せきりだったが、PTA副会長を任されることとなり、学校や地域の方々と関わる場に参加することとなった。

まちづくり活動デビューまでのストーリー

- PTA デビューをきっかけに
 - ・PTA副会長をすることになりはじめて地域活動と言われるような場に参加。
 - ・小学校での子どもの様子や地域における子育ての取組み等について、少しずつ関心を持つようになった。
- お母さん方に押されるオヤジたち
 - ・PTAの会議はやはり女性陣が多数を占めている。（男3に対して女7くらい）
 - ・しかもとってもパワフルでやる気に溢れ、学校行事についても積極的に提案される。そんな女性陣に男性陣はやや押され気味…
- オヤジの会の立ち上げ
 - ・ある会議の帰りに男性陣だけで飲み会開催。
 - ・女性陣のパワーに圧倒されるも、「今まで子どもや学校の事を真剣に考えた事って意外となかったなあ…」「ああいうお母さん達が子どもの支えになっているのかもね」と言った話題に。
 - ・そして、「これまでのPTAなどの活動ってどうしてもお母さん達を中心になってるから、父親の関わりが少ないよな」「もっと父親が積極的に学校や地域に関わっていく機会があったら良いかもな」といった話になり、「それなら学校や地域、そして子どもに近いオヤジになろうぜ！」ということで「オヤジの会」を設立することに。
- まずは1回/月の会合（飲み会？）から
 - ・最初はPTAのお父さんたちへの呼びかけから開始。
 - ・月に1回程度、地域の公民館で1～2時間の会合を設け、お互いの家庭や子どもの事についてざっくばらんな意見交換。その後は当然のごとく居酒屋にて延長戦…気づけば妻の愚痴を語る場に…
 - ・そんな活動をしているなかで、また一人、また一人…と友達の友達が集まり、気づけば50人くらいのメンバーが集まった。
 - ・活動の基本原則は「オヤジだからこそできること」とし、子どもが学校を卒業してもオヤジの会の卒業は本人の意思次第としている。
 - ・現在は、地域の防犯対策や通学路の安全確認など、子どもが安心して過ごせる地域づくりの活動を展開中。



特技を活かした主婦のセカンドステージ♪ (40代女性 生駒ハナコさんの場合)

設定

- ◇家族構成 夫（会社員、40代）、私（専業主婦）、子ども2人（大学1年生、高校1年生）
- ◇趣味・特技 食品衛生管理者、栄養士の資格を保有。結婚前は食品会社に勤務。
- ◇20代半ばで結婚して以降、専業主婦として子育てに奮闘。ようやく子育てもひと段落し、社会に出て何かをしたいと模索中。

まちづくり活動デビューまでのストーリー

- いこま塾に参加する
 - ・ある日、「いこま塾」の案内状が届き、「まちづくりって何だろう？」というタイトルに興味を持ち参加してみる。
 - ・話を聞いたり、会場で会った人たちと話をするなかで、地域には自分の知らないところで、様々な活動をしている人がいることを知りビックリ。
 - ・「まちづくりはできることから始めれば良いんです」という一言が心に残り、「自分の出来ることって何だろう…」と自らのことを改めてふりかえってみる。
- 友達ができる
 - ・回数を重ねて参加していくなかで、同じような年代の主婦仲間ができ、普段でもお茶をするような間柄に発展。
 - ・そんな時、「食育」の話題になり、最近の若いお母さん方は離乳食の作り方や子どものお弁当の作り方で悩んでいるという話を耳にした。
 - ・「私が出来ることってもしかしたらコレかも！」とアイデアがひらめく。
- 出来ることからやってみる
 - ・栄養士だった頃の知識と経験を活かし、乳幼児の離乳食レシピや忙しいお母さん向けの簡単お弁当レシピを作成し、ホームページで公開することにした。
 - ・ちなみにホームページは仲良くなったお母さん（元SE）が作成してくれた。
 - ・徐々にホームページのアクセス数が増加。ある時、ホームページに「レシピの実演・お料理教室をしてくれませんか」というメッセージが寄せられる。
 - ・そこでイベント的に自宅で料理教室を開催。思いのほか好評を博す。
- ボランティアサークルの立ち上げ
 - ・その後、いこま塾で知り合った友達やかつての同僚など数人でお料理教室ボランティアサークルを立ち上げ定期的に活動を展開中。
 - ・現在、「食育」など新たな分野への取り組みも模索している。



ステップ1

ステップ2

ステップ3

ステップ4

くじけない私の地域デビュー（60代男性 生駒タロウさんの場合）

設定

- ◇家族構成 私（無職）、妻（専業主婦、60代） ※子ども2人は独立して別居
- ◇趣味・特技 エンジニアとして定年まで勤めあげる。趣味は山登り・ハイキング。
- ◇昨年、定年退職を迎える。これまで海外をはじめ国内も単身赴任で点々とし、地域活動等に参加したことはない。退職後、新たな出会いや日々のモチベーションを求めているところである。

まちづくり活動デビューまでのストーリー

- 最初は趣味の登山やまちあるきから…
 - ・退職を契機に昔の仲間と趣味の山登りやハイキングに出かけるようになった。
 - ・また、時間が合えば、妻と一緒にまちあるきに出かけ、知らないまちを散策するのがライフワークようになってきた。
- まちの魅力に気づく
 - ・まちあるきを通して、自分が暮らしているまちの魅力に気づき、もっと自分が暮らすまちや地域のことを知りたいと思いはじめめる。
 - ・市の広報等で情報を得ながら、様々な体験学習や生涯学習等の講座を積極的に受講。
 - ・偶然、「井戸端会議」の存在を知り、参加してみる。
- 地域デビュー（挫折編）
 - ・もっと地域の魅力を広く知らしめたいという思いが強くなり、市主催の講座や井戸端会議で出会った人たちに声をかけ、まちあるきの企画会議を開催。
 - ・かつてのエンジニア時代の頃の血がさわぎ自ら率先して、企画書を練り上げる。
 - ・しかし、枠組みは概ね固まったが、実際に動く人（担い手）が見当たらない。また、やや独断専行的な企画書の作り方が反発を受け、日を追うごとに仲間がいなくなる羽目に…
- 地域デビュー（再チャレンジ編）
 - ・前回の反省を受け、まずはフラットに自由な意見交換を行う場を設ける。場所は参加者の家で持ち回り開催。
 - ・また、地域の寄合等にも積極的に顔を出すようにし、身近な仲間づくりにも取り組んだ。
 - ・そして、まずは有志だけで勉強会を開き、地域のことを学び、ご近所さん向けのまちあるきを実施。
 - ・現在は、仲間も増え、行政のボランティアガイド講習等を受け、定期的にまちあるきイベントを開催中。



ステップ1

ステップ2

ステップ3

ステップ4

コラム2

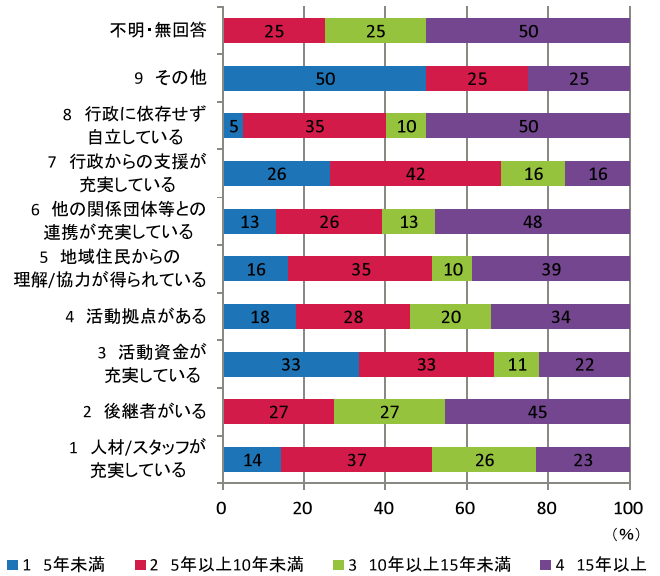
今ある地域活動団体の思いから気づき、学ぶ2

●活動を長く継続するためのコツ

活動を長く継続していくためには何が
必要なのでしょうか。

アンケート結果によると、「行政に依存せ
ず自立する」、「地縁団体や他の関係団体等
との連携や協力体制の構築」、「後継者の育成」
の3つが重要な要因であることがわかりま
す。

活動がうまくいっていると思う
事項と活動年数の関係

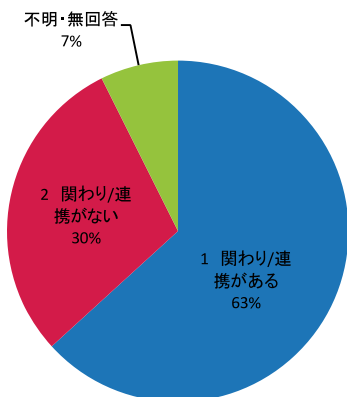


●持続的な活動のためには連携が大事

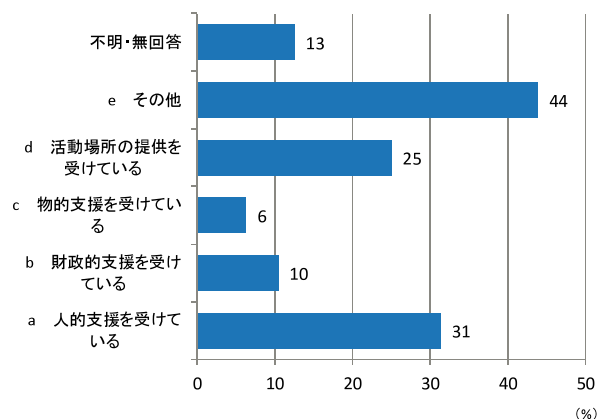
他の団体との関わりや連携に関する設問については、6割程の団体が関わりや連携を持っていると回答されました。

関わりや連携の具体的な内容について、「人的支援」という回答が最も多く、活動を継続していく上での課題と考えられる「担い手や後継者の確保・育成」の裏返しとして、関わりや連携ということが必要だということが伺えます。

他の団体との関わりや連携の有無



関わりや連携の具体的内容



Ⅲ. 「まちづくりを育てよう！」編

まちづくりが動き出しました。せっかく、動きはじめたまちづくり活動をより楽しく、長く続けていくためには、活動そのものを充実させていく必要があります。そのためのヒントをご紹介します。

Ⅲ-1 交流の場をつくる

まちづくりをはじめるとき、また続けていく上で、様々な人と出会い、様々な情報を交換し共有することは非常に大切です。お互いの足らずの部分を補って支え合うだけでなく、違う立場の人との交流が新たな気づきを生み、活動が新しい展開へと発展していく可能性もあります。

近年、様々な場所で「交流の場」をつくる取り組みが広がっています。いわゆる井戸端会議なのですが、「参加を強制しない」「動員をかけない」「来る者を拒まない」などのルールのもとに開かれた“場”です。

何かを決めるための集まりではなく、近況や考えていることを報告し合う、すぐに何かを期待するのではなく、さまざまな人達が集い、お互いが話を聞き合う場です。こうした場がつながりを生み、それが新たな活動の芽を育むことにつながるのです。

一度、身近なところからはじめてみてはいかがでしょうか。

〈具体的な取り組み例〉

- 生駒：まちづくり井戸端会議（毎月第1日曜、午前10時～、生駒市役所1階休憩室）
- 川西：つながりカフェ（毎月第3木曜、午後6時30分～、ぱれっと川西）
- 北千里地域交流会（奇数月第1木曜、偶数月第1土曜、午後7時～、Dios1番館会議室）

- ◆ 市民誰もが参加でき、テーマを決めずに自由に議論や意見を交わす場・「まちづくり井戸端会議」を開催しています。（開催は、毎月第1日曜日の午前10時から、市役所1階休憩室）
- ◆ この「まちづくり井戸端会議」は、平成22年度に実施した「～みんなでつくる“まち・景観”～いこま塾」、平成23年度に実施した「いこま塾まちづくりワークショップ」に引き続き、「口実がなくても集まれる、出入り自由な会」、「何かを決定するような話し合いでなく、おもしろそうな人とのつながりをつくるきっかけづくりの場」として始まっています。

『まちづくり井戸端会議の3つの原則』

○出入り自由であること

- ・参加する、しないも自由。出席も取らないので、自分が「来たいな」と思ったときに、自分のペースで参加する。

○話題・議題は用意しない

- ・参加するみなさんが、「みんなに投げかけたい」と思う話題を用意する。
- ・投げかけられた話題に、みんなからの反応がなければそこで話は終わりますし、みんなが特に投げかけたい話題がなければ、そこで会議も終わります。

○無理やり決めることはしない

- ・この井戸端会議は、何かを決めるための場ではありません。
- ・井戸端会議は単に意見交換をする場です。みんなで話を進めていく中で、気づきや、つながりができるきっかけができればと思っています。



井戸端会議の様子

活動を継続するための必須条件は言うまでもなく人（＝担い手）です。いくら立派な理念があっても、それに共感し、活動に参加してくれる人がいなければ何の成果を上げることもできないでしょう。地域活動団体へのアンケート結果やインタビューでも、担い手についての意見が多くあります。

しかし、全くまちづくりに関心がない人に対して、「スタッフが足りないのです！」「一緒にやりませんか！」と投げかけても、なかなか協力してもらえないでしょう。

まずは自分たちの活動に共感してもらうことが大切です。自分たちの価値観を押し付けたり、一人よがりの活動には共感が得られないでしょう。自分たちの活動が地域や社会をよくすることにどのようにつながっているのか、そのためにどんな取り組みをしているのかをきちんとアピールしましょう。

また、活動への参加者を増やすためには組織などの運営がオープンであったり、民主的であることも大切です。そして、何よりも活動そのものが楽しいということが第一です。使命感ばかりにとらわれるのではなく、メンバーが活動を楽しんでいる姿を見せることが人々に「私も参加してみよう」と思わせることにつながるのです。

〈具体的な取り組み例〉

- 活動を紹介する
（ブログによる発信、ニュースレター作成など）
- 様々なサークルや講習会等に参加する



活動に取り組む団体の多くが抱える悩みの一つが、活動資金をいかに確保するかということです。自治会、NPO、サークルなど、いずれも会費が基本になりますが、会費として徴収できる額にも限界があります。寄付もありますが、現実には安定的な資金源と考えることは難しいでしょう。

それ以外に活動のための資金として考えられるのは、公益的機関などからの助成金です。まちづくりなどの活動に対しては、自治体の他にも財団法人、場合によっては企業が助成制度を作っている場合があります。これらを活用することも考えられます。

ハードルは高くなりますが、活動の中で収益事業に取り組む方法もあります。例えば、一番簡単にできるのは、家庭にある不要品などを持ち寄るバザーです。その他、地域のお年寄りの送迎サービスを会員制にしたり、集会所などの地域の施設でカフェやレストランを営業している例もあります。このような事業はコミュニティビジネスと呼ばれています。

〈具体的な取り組み例〉

- バザー
- 会員制の送迎サービス
- 生垣の共同管理
- コミュニティカフェ、コミュニティレストラン



当然、市民一人ひとりが取り組むことには限界があるという声も少なからずあります。そんななかであって、行政と連携して取り組むことができるものもあるのでそのいくつかをご紹介します。

●公園をプロデュース・マネジメントする

地域の公園を自分達の手で作り上げ、自分達で運営管理する。そんな事が可能となるのがコミュニティパーク事業です。

コミュニティパーク事業とは、「緑の基本計画」に掲げる「花と緑と自然の先端都市・生駒」の実現に向けた取り組みのひとつで、地域の人達が身近な公園に愛着をもって利用し、将来にわたり育めるよう公園づくりを支援する事業です。

この事業では、一定の制約下のなかでこれまでの公園整備や運営管理の枠組みを超え、地域の人達が主役となり、身近な公園の使い方や活かし方などについて話し合い、市と協働^{※2}しながら、より良い公園にリニューアル（再整備）することが可能となります。

【最近のコミュニティパーク事業の取り組み例】

平成 24 年度	「あすか野遊具の広場、あすか野花の広場、あすか野森の広場、あすか野南の緑道、あすか野北の緑道」（あすか野自治会）
平成 22 年度	「鹿ノ台いちよう公園」（鹿ノ台北1丁目自治会）
平成 21 年度	「東生駒北第1公園」（東生駒自治会）
平成 20 年度	「ひかりが丘第1児童公園」（ひかりが丘自治会）
平成 19 年度	「壱分町児童公園」（壱分町東自治会）



東生駒北第1公園の取り組みの様子

（上）みんなでどんな公園にしたいか意見交換

（右）子ども達と公園づくり



※1 互いに連絡をとり協力して物事を行うこと。

※2 同じ目的のために、対等の立場で協力して共に働くこと。

（出典：大辞泉 提供：JapanKnowledge）

●自分達で地域のルールをつくる

既に述べたように、まちづくりとは「私たちの思いを実現するための動き（又は、その動きを広げていくこと）」というように表現することができます。

近年、郊外の大規模住宅団地において、「植栽（緑）の管理が不十分でまちの潤いがなくなった」「敷地の細分化が進み、ゆとりあるまちなみが失われた」といったことが課題として挙げられることがあります。

このような場合、一人だけが声をあげて一軒ずつお願いして回るというのは課題解決の方法としてなかなか難しいものがあります。

こういった課題の解決手法のひとつに「地区計画」があります。地区計画とは、地域の人たちが一緒になって地域の問題・課題を共有し、その解決のために地域独自のルールとしてとりまとめたものです。生駒市では、鹿ノ台(H2. 11. 1)、生駒台(H7. 10. 20)、光陽台(H7. 10. 20)、東生駒1丁目(H20. 12. 10)で地域が主体となり地区計画がつくられています。

また、この他にもまちなみや緑の維持・保全に関する地域主体のルールづくりには、「建築協定^{※1}」や「景観協定^{※2}」、「緑地協定^{※3}」等の手法があります。

このように一人の力は微力ですが、地域の人たちが同じ目標に向かって力をあわせることで、その目標の実現に大きな一歩を踏み出すことができるのです。



鹿ノ台地区のまちなみ



生駒台地区のまちなみ



光陽台地区のまちなみ



東生駒1丁目地区のまちなみ

※1 建築基準法に基づき、地域の特性に応じた良好な環境を維持増進するために、区域内の土地所有者等の全員の合意により一定の建築ルールを協定として結ぶ制度

※2 景観法に基づき、良好な景観形成のために景観計画区域内の一回の土地所有者、借地権者の全員の合意により景観に関するルールを協定として結ぶ制度

※3 都市緑地法に基づき、土地所有者等の全員の合意により緑地の保全や緑化の推進に関する事項を協定として結ぶ制度

応援メッセージ・一言コメント

この冊子を作成するにあたり、有識者の先生方をはじめ多くの方々の協力を得ております。この場をかりてお礼を申し上げます。また、最後にご協力いただいた方々より一言メッセージ（生駒のまちづくりへの応援・エール）を頂戴しておりますのであわせてご紹介させていただきます。

《生駒市市民アクションプラン委員会メンバーの皆さん》

<p>大阪産業大学 人間環境学部 准教授 田中みさ子（委員長）</p>	<p>今住んでいるまちが住みやすい良いまちであるとしたら、それは長い間の多くの人々の日々の努力の積み重ねの賜物です。一人一人の市民が持っているまちを愛する気持ちを行動としてあらわすことは、先人のつくりだしたまちの良さを引き継ぎ、よりよいまちにして次の世代にバトンタッチすることでもあります。</p> <p>生駒が好きで、生駒をいいまちだと思っている人、生駒をもっと良くしたいと思っている人が生駒のために何かしたいと考えた時、この「ガイドブック」が一つの道標となるように願っています。</p>
<p>大阪大学大学院 工学研究科 准教授 松村暢彦（副委員長）</p>	<p>生駒は素晴らしい場所です。</p> <p>それは単に利便性や歴史性というだけではなく、生駒のことが好きで支えようとする人たちが多様で沢山いるという点にあります。</p> <p>いきいきと活動できる人や場が増えていく、これからの生駒が楽しみです。</p>
<p>まちづくりワークショップ 参加者代表 荒井尊弘（副委員長）</p>	<p>まちづくりは、いろんな人と一緒に、手近なところで、出来ることから気軽に始めることが大切です。</p> <p>しかし、最近、対話の機会がめっきり少なくなっています。そこで、様々な人と出会い、お互いの気持ちを大事にし、今考えていること、話してみたい事などを会話する場である「井戸端会議」に参加する事をお勧めします。</p> <p>きっといいアイデアが出てくると思います。</p>
<p>大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授 下村泰彦</p>	<p>「まちづくり」に関して、『何かやってみたい』と思っている方、『随分前から活動を始めているけど、なかなか進展がなく輪も広がらない』と思っている方、それぞれ悩みをお持ちの方は多いと思います。「まちづくり活動」は、段階に応じて悩みも違います。このガイドブックが、まちづくり活動を始めるきっかけづくりや、継続するためのヒント・コツとして活用頂ければと思っています。</p>
<p>弁護士 安若多加志</p>	<p>生駒市民となって10年も経っていませんし、大阪通勤で生駒に居る時間は少ないのですが、生駒が好きです。雨後の澄んだ空気の中でみる生駒山の姿が特に好きです。</p> <p>今回の企画に関与させていただき、「まちづくり」を通じてより生駒が好きになれればと思いました。</p>

<p>生駒市自治連合会理事 城山英章</p>	<p>まちづくりには多くの団体が参加すると思いますが、活動するには活動資金の問題があります。 目的が決まっても、どのようにするのか？すべてボランティアでやるのか？ どのような活動でも資金が必要です。日本人にはドネーション(寄附)する文化が少ないように思います。行政に頼るのではなく、目的が一つであれば自己完結型でなければなりません。そういった意識を持って活動するのが理想でしょう。</p>
<p>生駒市農業委員会会長 井上良作</p>	<p>農業従事者の高齢化が進み、後継者もなく、遊休農地が増えてきています。もしこの本を読んで、生駒の農地や山里といった自然を大切にしたいと思われたら一緒に何か始めませんか？ みんなで素敵な生駒の自然を守り・育てましょう。</p>
<p>生駒商工会議所常議員 鐵東貴和</p>	<p>これからのまちづくりは市民(自分)が「どのようなまちで暮らしているか」から「どのようなまちで暮らしたいか」を自らの手で実現する事が重要になってくると考えられます。 そういった意味においてこのガイドブックは小さな第一歩かもしれませんが、市民一人一人が行動(アクション)する事で大きな力が生まれ、今よりも、もっと暮らしやすい生駒市になるものと考えております。</p>
<p>まちづくりワークショップ 参加者代表 筋原祐子</p>	<p>「生駒のまちづくりに、少しでも多くの市民に関わってほしい。」この企画に参加する中で、そんなまちづくりのあり方を感じました。行政にお任せではなく、主体的にまちづくりに関わっていけるよう、私自身、少しでも多くの人達と一緒に楽しく活動する機会を持っていただければ、と思います。</p>
<p>まちづくりワークショップ 参加者代表 大西健夫</p>	<p>生駒市の市民アクションプラン委員会に参画の機会をいただき、より一層「いこま」に愛着を抱くひとりとして微力ですが街の魅力アップに尽くすことができると願っています。</p>
<p>まちづくりワークショップ 参加者代表 菊田千実</p>	<p>自分が住む地域 町をもっと知る努力をしてみませんか？ 身近なことから ちょっとした気づき つなぐりを 膨らませてみてはいかがでしょうか。</p>



《ヒアリングにご協力頂いた大阪大学松村研究室の学生の皆さん》

<p>おいだ てつひろ 老田 哲寛</p> <p>大阪大学大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻1年</p>	<p>それぞれの方々が活動をするきっかけは「他の方に誘っていただいたから」という方から「自分に出来ることを何かしたい!」という方まで幅広いな、と感じました。今後も様々な理由で活動を始める、または参加する方が増えてほしいと思います。</p>
<p>みなみ まな 南 愛</p> <p>大阪大学大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻1年</p>	<p>様々な担い手から、まちづくりの現場のおもしろさと課題を直接お聞きできる得難い機会でした。ヒアリングにご協力下さった皆様、場所提供や同伴にご協力下さった生駒市役所の方々、本当にありがとうございました。</p>
<p>やまだ あきひろ 山田 晃宏</p> <p>大阪大学大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻1年</p>	<p>ヒアリングという形で参加させて頂きましたが、それぞれの方が活動に対して様々な思いや考えをお持ちになっていて、そして皆さんが地域のためにという気持ちをお持ちになっていて素敵な町だなと感じました。</p>
<p>やまもと たすく 山本 翼</p> <p>大阪大学大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻1年</p>	<p>この度はヒアリングに協力させていただきありがとうございます。負担になることも多かったと思いますが、お力になれていれば幸いです。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。</p>
<p>ふるみどう ななこ 古見堂 奈々子</p> <p>大阪大学工学部 環境・エネルギー工学科4年</p>	<p>人とのつながりを大切にし、一見小さなことでも自分にできることをする、という当然のようで中々できないことを皆さん実行しているのが印象的でした。今自分が住む地域や、地域の中での自分の将来を考えるきっかけになりました。</p>



まちづくりに関する支援メニュー ～ どこでも講座

生駒市では、「もっと生駒市について知りたい」という声にこたえるため、市民の皆さんの要望に応じて職員が出向き、市の事業や制度について説明する「どこでも講座」を実施しています。

【対象】

市内に住むか市内へ通勤・通学している人を主な構成員とし、どこでも講座開催の際に 10 人以上の参加者を集める事ができる団体・グループ。

【メニュー】

ホームページをご覧ください。

<http://www.city.ikoma.lg.jp/kashitsu/01200/04/01.html>

【とき】

担当課に相談してください。

時間帯は 10:00～21:00 です。講座によっては開催日時を限定しているものがあります。

業務の繁忙期には実施できません。

年末年始（12月28日～1月5日）は行いません。

【ところ】

講座会場は施設見学を除き、団体・グループで用意してください。

【費用】

講師派遣料は無料ですが、講座によっては資料や材料代などの実費が必要なものがあります。その他の会場使用料などの講座開催に必要な経費は団体・グループが負担してください。

【申込・問合せ】

希望する講座の担当課と日程などを調整した後、開催日の 20 日前までに、申請書を直接か郵送、ファクス、電子メールで担当課か広報広聴課へ申し込んでください。なお、講座終了後には所定の用紙による簡単な報告書の提出が必要です。

〈都市計画に関わる主なメニュー〉

- | | |
|--------------------------|---|
| ◇みんなでつくるまちづくりのルール | 住んでいる地区のみなさんが主役となってつくる、地区の実情に応じたまちづくりのルールの作り方の紹介
(20分程度) |
| ◇街路樹のはなし | 街路樹の歴史や市内にある街路樹の種類・剪定方法、効用などの説明
(1時間程度) |
| ◇みんなでつくるふるさと生駒の景観 | 自然と都市が調和した景観を目指す生駒市景観計画や景観法をわかりやすく解説
(40分程度) |
| ◇いこまの緑を知ろうよ!!身近な植物の不思議発見 | 普段、何気なく過ごしている生活から、緑の大切さや不思議さを発見し、「いこまの特徴ある緑」を知るちょっとユニークな講座
(45分程度) |

まちづくりガイドブックと都市計画マスタープラン

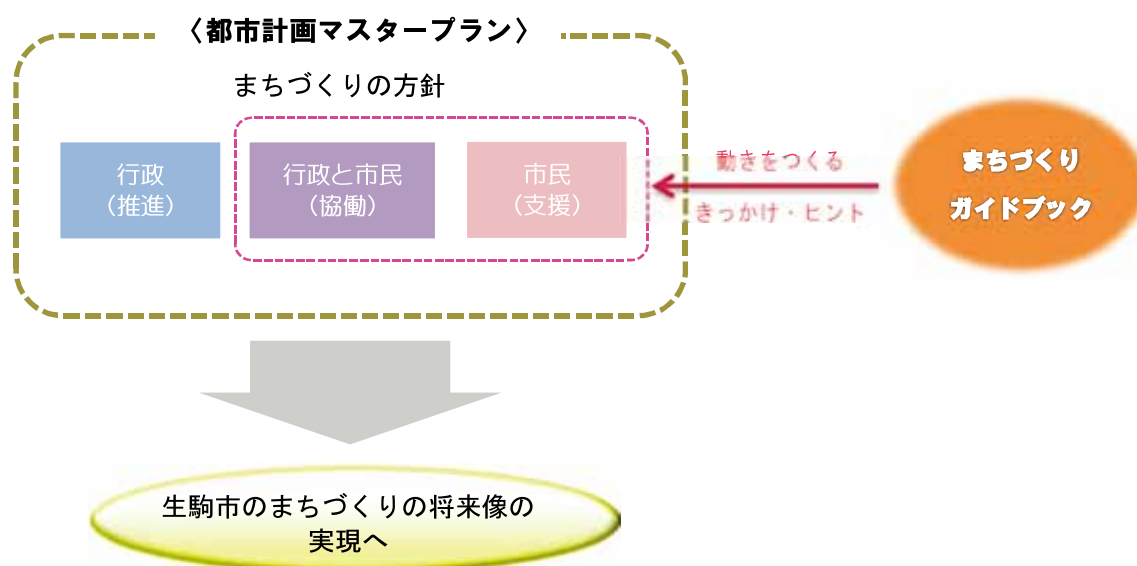
都市計画マスタープランは、「土地利用をどのように規制・誘導していくか」「都市施設をどう整備していくか」「どのように景観形成を進めていくか」といった生駒市のまちづくりの大きな考え方を示したものです。（生駒市のまちづくりに対するスタンス）

そして、それぞれについて「行政施策の推進（行政自ら取り組むべきこと）」、「市民・行政が共に取組む協働」、「市民の取組みへの支援」の3つの視点から整理をしています。

一方、まちづくりガイドブックは市民の自主的・主体的なまちづくりの動きを促すための考え方やきっかけを示したものです。すなわち都市計画マスタープランで示された「市民・行政が共に取組む協働」や「市民の取組みへの支援」に該当する市民の動きを生み出す手がかりとなることを意識して作成したもののなのです。

生駒市のまちづくりは、行政だけ、市民だけではできません。両者がともにできることに取り組みつつ、協働で進めていく必要があります。

このガイドブックをみて、一人でも多くの市民の方々が、愛する生駒のまちづくりのために「自分ができること」を考えてもらい、まちづくりの「動き」につなげていってもらえたらと期待しています。





もっと生駒が好きになる！～生駒市まちづくりガイドブック～

発行：生駒市 平成 25 年

問合せ先：生駒市都市整備部都市計画課

〒630-0288 奈良県生駒市東新町 8 番 38 号 tel:0743-74-1111 (代表)